

2015年度 事業計画

(2015年4月1日から2016年3月31日まで)

伝統のかおり高き学園を目指して

学校法人 修道学園

2015 年度 学校法人修道学園事業計画

<法人本部>

主要項目	具体策	実施月
1 合併後のスムーズな融合の推進	(1)ガバナンスの強化 (2)諸規程の整備 (3)仕事の進め方の整備	年間 年間 年間
2 資産の運用	(1)大学部 運用目標10億円 (2)中高部 運用目標 1 億円	年間 年間
3 施設の整備	(1)大学部 食堂棟の改修 9号館の設計と着工 (2)中高部 修道学問所之蔵の文化財申請	3月 年間 年間
4 寄付金募集	恒常的な寄付金募集開始	年間

2015 年度 学校法人修道学園事業計画

< 広島修道大学 >

主要項目		具 体 策	実施月
Ⅰ.法人の合併			
1	合併等への対応	①鈴峯女子中・高の人事・財務システム構築 ②合併に伴う関連規程の整備	通年
Ⅱ.教育組織・教育支援体制の構築			
1	新学部・新学科・改組の推進	①教職員採用計画の作成 ②人件費の検討	通年
2	新学部学科設置	①教育学科の届出設置申請 ②健康科学部(心理・健康栄養)(仮称)の設置申請 ③国際系・政策系・環境系新学部・新学科の検討	4 月 3 月 通年
3	教育組織の検討	①大学院臨床心理学専攻(仮称)の検討	通年
4	教育支援体制の充実 (教学センター組織改革)	①IR等の新たな支援業務の検討 ②新たな組織体制(複数課への分割案等)の検討・構築	通年 9 月
Ⅲ.教育課程－新カリキュラムの策定と新学事暦の導入			
1	新カリキュラムの策定	①現行カリキュラム(2011 年度)の検証 ②新カリキュラム(2017)の方針等の決定 ③課題解決型学習(PBL)やアクティブラーニングなどの教授・学習方法、インターンシップ、サービスマーケティングなどの体験的学習の推進	通年
2	全学的キャリア教育の検証と検討	①「大学生活とキャリア形成」(2年次履修必修)の検証、および学部・学科再編やカリキュラム改正に対応した開講形態・内容の検討と実施 ②インターンシップのキャリアセンターへの統合	9 月 通年
3	学事暦の検討	①4 学期制の検討	通年
4	新カリキュラムにおける全学共通の情報教育の検討・実施	①新カリキュラムにおける全学の情報教育のあり方の検討と実施	通年
Ⅳ.学生の受け入れ－外部環境の変化への対応			
1	入試制度改革	①新学部・学科の入試制度・日程の決定 ②入試制度の検討・実施	2 月 通年
2	入試におけるインターネットの利用	①インターネット出願の改善	通年
3	新学部・新学科の学生募集活動	①人文学部教育学科の募集活動	通年

V. 学生支援・学習支援

1	学生の孤立化防止	①地縁によるつながりの強化(県外学生・県北等出身新入生対象の出身市町村単位での懇談会実施)	4月
2	交通安全の徹底	①駐車・駐輪環境の整備と安全講習(二輪車の実技指導を含む)の実施	通年
3	学生の危機管理意識の向上	①法令順守の意識向上のための研修会の開催	通年
4	サークル活動への支援	①顧問・学生・学外指導者の三者によるサークル懇談会の充実	通年
5	学内禁煙体制に向けての取り組み	①学生喫煙率上昇の抑制(1年次生の予防)	通年
6	進路・就職支援の強化	①地元就職の支援(大都市圏就職支援プロジェクトの再検討) ②就職内定率90%以上をめざしたガイダンスや各種セミナー等の実施 ③卒業生フォーラムの充実	通年
7	表彰資格の定期的な見直し	①資格取得表彰の対象資格の見直し	3月
8	情報リテラシー能力の強化	①「修大基礎講座」「文献検索ガイダンス」を通じた学生の情報リテラシー能力強化	通年
9	学習支援体制の拡充	①教員への支援・連携機能および学部・学科・専攻との連携を通じた教育機能の強化(学習アドバイザーの業務の拡充) ②学習支援プログラム(ワークショップ)の拡充	通年
10	学習支援のための学習ピアの養成	①学習ピア育成につながる授業科目の試験的実施と検証	3月
11	協創館における学習機能の整備・拡充	①地域と連携した教育・プロジェクトの推進と支援【ひろみらC】 ②社会貢献の仕組みと仕掛けづくりの試行と検証【ひろみらC】 ③「ひろみらスタジオ」の活用方法の提案・実践・検証【ひろみらC】 ④多言語・多文化環境の提供と交流活動の提案・実践・検証 (i Cafeを中心に)【国際C】 ⑤国際交流事業(留学プログラムなど)の推進と周知 (まなびホールを中心に)【国際C】 ⑥「まなびコモンズ」(学習スペース)の活用方法の提案・実践・検証【学習支援C】 ⑦「まなびホール」の活用方法の提案・実践・検証【学習支援C】 ⑧ひろみらセンター、国際センター、学習支援センター協創による取り組みの試行と検証【3センター合同】	通年

VI. グローバル化への対応と地域社会の課題解決に取り組む人材の育成

1	国際センター組織改革によるグローバル化の推進	①グローバルコースの検証と見直し ②大学のグローバル化に向けた教育支援体制の検討と実施新たな組織体制(教員組織の新設など)の構築 ③新組織による国際教育カリキュラムの策定 5-1 海外派遣プログラムの整理と教育連携 5-2 留学生受け入れプログラムの充実	7月 9月 通年
2	地(知)の拠点整備事業「イノベーション・ブリッジによるひろしま未来協創プロジェクト」の推進	①教育領域(地域イノベーションコースの実施・検証等)の推進(2015年PBL教育を開始) ②研究領域(ひろみらシンクタンクの充実等)の推進(各連携協定先との共同調査・研究の実施) ③社会貢献領域(ちいスタの充実等)の推進(ちいスタとPBL教育との連携を図る) ④ひろみらプロジェクトの中間検証(実地調査の対応)	通年
3	地域社会との連携	①地方公共団体、経済団体等との包括連携協定締結と地域連携の強化 ②締結した協定に拠り、研究・教育・まちづくり・人材育成・生涯学習等について協働の推進	通年

Ⅶ.財政・施設設備の充実			
1	食堂棟の改修と改修後の営業開始	①1 階部分は、2015 年前期に改修、後期から営業開始 ②2 階部分は、2015 年後期に改修開始	9 月 3 月
2	9 号館の建設	①実施設計完了、施工業者の決定・着工	9 月
3	キャンパスマスタープランの策定	①1号館、2号館、4号館、体育館、第1研究棟残置部分などの今後の在り方について検討 ②保育施設設置の検討 ③2017 年度以降の校舎建替事業・修繕事業に関する計画案およびそれに伴う第 2 号基本金組入計画の策定	通年
4	学内施設計画営繕工事の実施	①策定済みの営繕計画に基づき、学内各施設の改修工事を実施	通年
5	情報環境の整備	①快適な情報環境を整備(情報を提供するにあたり、アクセス速度を考慮に入れたツール、図書システムなどを選定) ②利用者にとって有効で、適切な電子情報の提供 ③教育用 alpha サーバ(教育用サーバの ID(alphaID)で利用するシングルサインオンシステム、教育用サーバ及び学認 Shibboleth)を一つに統合した運用管理を実施	通年
Ⅷ.自己点検・評価			
1	認証評価申請	①大学基準協会への改善報告書(第 2 期分)提出	7 月
2	IR機能の充実	①大学基礎数値、教育成果指標等の整理・検討 ②授業アンケート実施方法の検討と結果分析	通年
Ⅸ.本学を取り巻く人々と連携した戦略的な広報展開			
1	戦略的広報の推進	①入学センター・同窓会等との広報連携の検討と実施 ②マスコミとの連携強化の検討と実施 ③広報の規模・媒体・時期・内容の再構築(計画立案)実施	通年 9 月
2	本学を取り巻く人々との連携推進	①同窓会との連携強化策の検討	通年
Ⅹ.附属鈴峯女子中高・鈴峯女子短大との連携			
1	附属鈴峯女子中高との連携強化	①鈴峯女子高からの内部進学卒の見直し ②鈴峯女子中・高の学習支援の検討と実施 ③鈴峯女子中・高との広報連携の推進	通年
2	鈴峯女子短大の運営	①鈴峯女子短大の円滑な運営	通年

2015 年度 学校法人修道学園事業計画

<修道中学校・修道高等学校>

<教員の部>

主要項目	具体策
I. 学力の向上	1. 大学進学実績の向上 ①定期テストの実施回数変更と新教育システム導入に伴い教育評価内規を改訂する。 ②模試を含めた各テストの成績結果、分析等を共有し、学習指導の改善を図る。 ③教科会の運営方法と教科主任の業務内容と裁量の見直しをする。 ④中級（3・4年）の進路指導案を策定する。 ⑤東大合格者数 20 名以上を目標とする。 2. 学力観の見直し ①学力委員会を立ち上げ、主体的な学び（自立・協働・創造）を中心とした授業形態を研究する。また、キャリアを意識した教科指導のあり方等を研究する。 ②進路部の情報提供を受け、学力委員会において、大学入試改革から推察できる学力観に基づいたカリキュラ化の調査研究をする。 ③グローバル人材教育を推進するために、学力委員会において、従来の国際理解教育に関わるイベントの見直しをする。 3. 学習意欲の向上 ①1・2年のセミナー合宿を実施する。 ②4年の東大見学ツアーを実施する。 ③5年の東大・京大セミナーを実施する。 ④中級からの成績優秀者を顕彰する。 ⑤6年の到達度別クラス編成を実施する。
II. 国際理解教育の充実	1. 各関連行事の実施 ①3年生の希望者によるオーストラリア海外研修を実施する。 ②4年希望者対象スキルアップ講座を実施する。 ③3, 4, 5年希望者対象エンパワーメントプログラムを実施する。 ④台湾留学サポートセンターとの連携による海外研修を実施する。 ⑤NPT（核兵器不拡散条約）再検討会議へ生徒代表を派遣する。 ⑥国際平和都市広島市の被爆 70 年に関する学校全体行事を実施する。
III. 倫理観の向上	1. 基本的生活習慣の確立 ①遅刻に関する段階的指導を徹底し、時間厳守の意識を高める。 ②自転車通学の安全指導と公共交通機関利用学時のマナー指導を徹底し、危機管理意識と倫理観の涵養に努める。 ③各学年フロアのトイレ清掃とゴミ処理を、それぞれの学年で責任を持って遂行することにより、美化意識を高める。 2. 自治向上の精神の育成 ①生徒の主体性を重視した生徒会活動や班活動を通して、創造力や忍耐力、協調性を育む。

IV. 教育力の向上	1. 人事考課の実施 ①校長面談の実施により、各教員の単年度目標を確認する。 ②授業観察の実施により、授業スキルの向上を図る。 ③貢献度の高い教員を顕彰する。 2. 新教育システム導入 ①短焦点プロジェクターを各教室1台ずつ導入し、授業のスキルアップを図る。 ②全教職員にタブレットパソコンを配布し、データの共有と有効活用に努め、同時にICT教育に関する意識とスキルを向上させる。
V. 生徒募集の充実	1. 広報活動の工夫 ①受験生参加型の入試説明会をより充実させ、受験生の志望意識を刺激する。 ②校長が提示する広報の重点項目を全教職員が共有することで、各方面の広報活動を充実させる。 2. 在籍生徒・保護者からの発信 ①在籍している生徒の満足度を校外に発信する具体策を検討し、来年度の募集活動として年度内に実施する。 ②生徒の保護者が教育活動に参加している様子やPTA活動の成果等を広報する方法を検討し、来年度の募集活動として年度内に実施する。 ③各界で活躍する同窓生から、本校の教育に関する提言を収集し、同窓生の構築している強大なネットワークの力を本校の広報に利用する方法を検討する。

<職員の部>

主要項目	具体策
I. 事務組織の活性化と業務の公平化	事務組織や業務内容の見直しを行う。
II. 中・長期の財政検討	中・長期を見通した財政の検討を行い、支出の削減と寄付金募集を含めた収入増加について、具体的方策を検討する。
III. 修繕計画の作成と修繕の実施	築後10年以上経過した建物の修繕計画作成と修繕の実施。
IV. 「修道学問所之蔵」の文化財申請	広島市重要有形文化財指定申請書を作成し、申請を行う。
V. 創始300年に向けての学園史編纂作業	①編纂作業スケジュール検討 ②コンセプト、内容等の検討 ③資料収集

＜鈴峯女子短期大学＞

主要項目	具体策	実施月
I 三つの教育方針に基づいた短期大学士力の伸長 1. 学長、副学長、センター長、学科長を中心として、学習成果を検証し、きめ細かく分かりやすい教育指導体制の構築	①ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーに基づいた教育の推進、点検を行う。 ②到達度を測る指標案に従って、学生自身が学習成果目標の到達度を把握するよう指導する。 ③「学士の質保証」を測るため、各種試験について、理解レベルおよび合格率の向上を目指す。	年間 年間 年間
II 産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業の全学的取組の継続とさらなる発展 1. ベルキャリア推進委員会を核に、産業界等との連携による人材育成事業の実施により「社会につながる力」を備えた人材の育成 2. 地域産業界等との連携を重視した実践的教育プログラムの改善・充実	①ポートフォリオの活用状況を把握し、より効果的活用をベルキャリア推進部会が中心となって検討し、成果を共有する勉強会を開催する。 ②教育課程外活動とその活動によって得られる学びの重要性を学生に理解させ、率先して社会に出ていくよう指導する。 ③野外オリセミや各種学内行事、ボランティア活動を通じて、学内イベントの企画運営力を育成し、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」などの力をつけさせる。 ①これまで連携してきたテーマ 3. サブグループ 1 の 5 大学との連携合宿授業の改善・充実を行う。 ②卒業研究や保育内容研究等における地域との連携を重視した実践的教育プログラムを継続する。 ③産業界等で活躍している卒業生と在学生の交流会を実施し、社会が求める人材像を理解させ、実践へと繋げる。 ④学科で選択必修としている基礎科目の「ボランティア学習」または「インターンシップ」により、学生の社会・地域と繋がる力を育成する。	年間 年間 年間 年間 年間 年間 年間

主要項目	具体策	実施月
Ⅲ 多様な学生の課題への教職員の連携による取組 1. チューター制による学生へのきめ細やかな対応の強化	①既にチューター制は導入済みであるが、各学科内での連絡を密に行い、学生へのきめ細やかな対応を強化する。 ②定期的な個人面談を通して、複数在籍する要支援の学生をサポートし、また、一定の割合を占める社会人学生と通常の学生とのより効果的な交流を促す。 ③特別に支援の必要な学生については、年度初めに各学科で調査し、必要に応じて特別支援チームを組織してカンファレンスを実施し、2年間で卒業できるように組織的に支援していく。	年間 年間 年間
2. 学生の就職を支援するため、就職先開拓など教員と就職課の緊密連携と指導強化	①これまで実施してきた各種就職ガイダンス・セミナー等を継続実施する。 ②全教員が、1社でも2社でも企業を訪問するよう、また、従来の方法(各学科関連企業・施設分担当訪問)に加え、他の出張等を利用し、企業等に求人募集を行うよう依頼する。 ③全教員が、校外実習の巡視の際に、当該学科の職域だけでなく、関連学科の職域についても求人依頼を行う。 ④就職課とチューター間で定期的な情報交換を行う。 ⑤全教員による学生の就職活動への指導と学生からの活動状況報告の徹底を図る。	年間 年間 年間 年間 年間
3. 学生自治会の運営・行事等に対する教職員の支援	①自治会への入会、その行事等への参加について、チューターを中心として積極的に呼びかけを行う。	年間
4. 学生生活アンケートによる学内の教育環境の改善	①学生生活アンケートの実施とその結果に基づく教育環境の改善に向けた勉強会を実施する。	年間
Ⅳ 教育目標・財務目標の達成に向けた自律的な学校運営		
1. 学科、センター、委員会の役割を踏まえた課題への自律的対応	①学科、センター、委員会等の活動状況の把握と学内における協力体制を維持する。 ②図書・図書館利用の促進のためにイベントを実施する。 ③学生の情報処理スキルの向上を支援する。	年間 年間 年間
2. P D C A的思考での業務・会議運営	①各学科、センター、委員会の事業計画の作成、計画の遂行、事業計画報告書の点検・評価をする。 ②個別授業アンケート、公開授業、授業参観を通じて改善を行う。 ③意見箱を設置し、必要に応じて担当者に提示し、改善の検討を依頼する。	年間 年間 年間

主要項目	具体策	実施月
V 連携事業の推進 1. 地域社会との連携や積極的な情報発信 2. 保護者・地域からの信頼に応える。	①ウェブサイトによって情報をタイムリーに発信する。 ②「すずらん」を読みやすくする。 ③オープンカレッジアーカイブスを更新する。 ①保護者と教職員の連携による三鈴会活動の充実及び同窓会との連携強化を図る。 ②入学式後と6月に教育懇談会を実施し保護者との連携を深める。 ③オープンカレッジの実施など短期大学の蓄積ノウハウを地域社会へ還元する。 ④地域住民との交流会、他大学や行政との連携による地域に貢献する。 ・地域連携事業、広島かきPR事業の実施 ・鈴かふえ(学生による手作りレストラン)の実施 ・子どもお菓子くらぶ(公民館活動)の実施 ・地域高齢者への配食サービス ・広島市内デパートで開催される広島ケーキショーへの参加 ・広島市教育委員会主催の食育活動に参加 ・広島市植物公園での地域食育活動の実施 ⑤あそびの出前(広島市西区子育て支援事業への参加)や出前保育(広島市佐伯区公立保育園子育て支援事業への参加)をはじめ、本学主催の子育て支援イベント「りんりん♪こどもフェスタすずがみね」を開催し、地域の子育て支援活動の一環を担う。 ⑥地域の教育・保育施設と連携し、子育て支援活動を実施することで、保育教材開発の成果や指導法についての提示を行う。 ⑦学生が主体となって地域の公民館、インターナショナル・プレ・スクールなどにおいて、キッズイングリッシュ、英語の絵本の読み聞かせを実施し、社会・地域と繋がる力を育成する。また、「りんりん♪こどもフェスタすずがみね」において地域の子供に英語の歌やゲームを通じて英語の楽しさを伝える。	年間 年間 年間 年間 4月・6月 年間 年間 年間 年間 12月・1月 5月 年間 5月～7月 年間 年間 年間
VI 広島修道大学の新学部・新学科構想と連携した四大化の推進 1. 保育学科の教育・伝統を進化させた新学科設置に向けての準備 2. 食物栄養学科の教育・伝統を進化させた新学部の構想の検討と設置に向けての準備	①広島修道大学の新学部・新学科構想と連携した四大化の推進と学内組織の整備を行う。 ①広島修道大学の新学部・新学科構想と連携した四大化を推進する。	年間 年間

2015 年度 学校法人修道学園 事業計画

＜広島修道大学附属鈴峯女子中学校・高等学校＞

主要項目	具 体 策	実施月
I 「目標管理」を原理とした自律的学校経営体制の展開 1. 学校組織全体に「目標の連鎖」が成立している。	①広島修道大学附属学校として、学校改革を組織的・計画的に推進 ②事業計画をブレークダウンした学校経営計画の作成と円滑な校務運営 ③全教職員による自己申告書の提出と管理職によるヒアリングの実施 ④学校経営計画の評価結果の分析と改善方策の策定と迅速な実施	年間 4 月 4 月・10 月 10 月
2. 部長・主任を中心として、各部・学年・コース・教科が自律的に校務を運営している。	①年間を見通した各経営計画の作成と円滑な校務運営 ②各経営計画の評価結果の分析と改善方策の策定と迅速な実施	4 月 10 月
3. 年間を通じて学校経営計画の目標達成状況を部長・主任等が適切に評価している。	①部長・主任会を中心とした各業務の進行管理と評価	年間
II 適切な教科マネジメントの展開による学力の伸長 1. 生徒の希望進路を実現するカリキュラムの内容が充実し、進捗状況の相互確認が年間を通じて行われている。	①特進コース 教科指導チームによる受験科目の指導強化 ②文理コース 文理コースとして統一性を持った進路指導と受験科目の指導強化 ③総合コース 各系の目標に応じた進路指導の充実 ④グローバル選択 選択科目、学校設定科目のシラバスの緻密化	年間 年間 年間 1 学期中
2. 習熟度別授業の充実が図られている。	①高校 1 学年（特進コースを除く）における数学・英語の習熟度別授業の充実 ②中学における数学・英語の習熟度別授業の充実	年間 年間
3. 受験学力の伸長を図るための教科指導が適切に推進されている。 【重点事業】	①生徒の進路希望の実現に必要な方策（模擬試験対策・模擬試験分析・朝学習・週末課題・小論文指導等）と授業の指導内容がリンクした教科指導の実施 ②宅習記録、週末課題、朝学習による家庭学習の習慣化の徹底	年間 年間
4. 教科指導力の向上が絶えず組織的、計画的に図られている。 【重点事業】	①教務部に教育研究を中心的に行う部門を新設（担当教員を配置）し、教科指導力の向上を促進 ②グローバル教育の充実に係る校内研修会を広島修道大学等と連携し年 2 回実施 ③教科指導方法の改善に係る校内研修を年 2 回実施し、校外研修会にも計画的に参加 ④生徒の英語力の伸長と教科指導の工夫・改善および受験指導のために広島修道大学との連携による研修会を定期的に実施 ⑤ICT（情報通信技術）を活用した指導方法について検討 ⑥生徒の授業アンケートを実施し、授業に反映	年間 年 2 回 年 2 回 年間 1 学期中 7 月・12 月

Ⅲ 生徒の目標を実現するための方策を組織的・計画的に展開 1. 学力の向上に向けて具体的な進路数値目標を設定し、必要な方策を組織的、計画的に展開している。 2. キャリア教育が適切に推進されている。 3. 生徒・保護者のニーズへ迅速に対応している。 Ⅳ 社会人として必要な資質・能力の育成的 1. 生徒の学校生活の活性化を積極的に図っている。 2. 強固な意志を練磨するために部活動等の活性化を図っている。 3. 自律心や規範意識・徳性などを育むための生徒指導等を組織的・計画的に展開している。 4. 生徒の自立心を育むために、教育相談活動等の充実を図っている。 5. 中途退学者の抑制に努める。 6. 国際交流活動・国際理解教育を組織的、計画的に推進している。 【重点事業】	①四年制大学進学率の数値目標を設定し、関係各部と緻密に相互確認 ②教科ごとの模試偏差値到達目標値を設定し、効果的な学力指導の推進 ③入試に向けて各学年段階の学力到達目標（進路シラバス）に即した補習計画の作成 ④進路シラバスに基づき進捗状況を定期的に相互確認 ⑤模試分析結果を教科指導内容や補習、週末課題等に速やかに反映 ⑥進路別小論文指導の充実 ⑦中学生の英検取得率の向上 ①広島修道大学との高大連携の強化と深化 ①保護者を対象としたキャリアセミナーの実施 ②「進路のしおり」等の保護者・生徒への情報発信 ①生徒自治会役員の行事企画能力（体育祭・文化祭等）、運営・実践能力の向上指導 ②生徒自治会主催の活動（挨拶・マナーアップ運動等）の活性化 ③生徒自治会の各種委員会活動の活性化（各委員会の定期開催等） ④生徒が主体的に学校行事や学年行事へ参加する取り組みの検討 ①部活動加入率を高めるための積極的な広報活動の実施 ①全教職員による服装、身だしなみ、挨拶指導の徹底 ②安全指導（交通安全・薬物等）、性教育、身だしなみ指導等の徹底のための講演会の実施 ③自転車通学生を対象とした交通安全教室等の実施 ④全校集会、学年集会、講演会等を通じた自立心、規範意識、徳性の涵養 ⑤遅刻防止指導の徹底と保護者への周知徹底 ⑥SNS等の適切な使用についての指導の徹底 ⑦生徒の携帯・スマートフォンの適切な使用について検討 ①スクールカウンセラーの積極的な活用とスクールカウンセラーと連携した担任による個別面談の実施 ①中途退学者防止のための関係者会議での情報共有と早期対応 ①各種国際交流活動の推進 ②中学海外修学旅行における事前学習の充実	4月 4月 4月 年間 各模試終了後 年間 年間 年間 年2回 年間 各学期始め 年間 1学期中 4月 年間 各年1回 4月 適宜 年間 年間 1学期中 年間 年間 年間 年間 年間
---	--	---

V 教育ニーズの把握と情報発信により、保護者・地域から信頼される学校づくり 1. 年間を通じて組織的・計画的な情報発信を展開している 2. 保護者と教職員との信頼関係が構築されている。 3. 組織的・計画的な広報活動により多くの受験志願者を獲得している。	①ホームページ、「学校通信」、「学年通信」、「進路のしおり」等の内容充実（学校に係る情報の積極的な発信） ②三鈴会、同窓会への情報発信と連携強化 ③地域（地域町内会等）への学校に係る情報の積極的な発信と連携強化 ④「エンジョイ鈴峯」の広島修道大学との連携による内容の充実 ①保護者と教師が信頼関係、協力関係をより構築できるような行事等の検討 ②保護者・生徒アンケートの実施 ①オープンスクール、学校説明会等の内容充実 ②学校・塾訪問等による募集活動の強化	年間 年間 年間 年間 1 学期中 2 学期 年間 年間
--	---	--